2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月９日

上 場 会 社 名　　尾家産業株式会社　　上場取引所　東
コ ー ド 番 号　　7481　　URL https://www.oie.co.jp
代　　表　　者 （役職名）代表取締役社長執行役員　（氏名）尾家　健太郎
問合せ先責任者 （役職名）執行役員管理本部副本部長 （氏名）畑中　則行　TEL 06-6375-0151(代表)
半期報告書提出予定日　2026年11月10日　配当支払開始予定日　2026年12月７日
決算補足説明資料作成の有無　：無
決算説明会開催の有無　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	66,608	3.4	2,079	4.8	2,118	5.4	1,431	1.4
2026年３月期中間期	64,426	10.5	1,983	2.0	2,009	2.4	1,411	△6.9

（注）包括利益　2027年３月期中間期　1,522百万円（　4.1%）　2026年３月期中間期　1,463百万円（　9.2%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	172.35	―
2026年３月期中間期	170.17	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	43,055	18,067	42.0
2026年３月期	41,111	16,970	41.3

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　18,067百万円　2026年３月期　16,970百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	47.00	―	55.00	102.00
2027年３月期	―	52.00			
2027年３月期(予想)			―	52.00	104.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	136,800	5.8	4,090	7.2	4,210	8.7	2,860	1.9	344.55

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更　　：　無

新規　　ー社（社名）　　、除外　　ー社（社名）

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　無

②　①以外の会計方針の変更　　：　無

③　会計上の見積りの変更　　：　無

④　修正再表示　　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	9,255,000株	2026年３月期	9,255,000株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	942,651株	2026年３月期	954,396株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	8,303,869株	2026年３月期中間期	8,291,762株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料３ページ「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 6
（３）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間における我が国の経済は、原油高騰や物価上昇という逆風の中、世界的なＡＩ・半導体需要や企業設備投資の拡大、賃金上昇等により全体としては緩やかな回復基調を維持いたしました。

当社グループの主要取引先となります外食産業におきましては、売上高の回復・拡大基調は維持いたしましたが、企業・店舗間の格差が広がり二極化の様相を呈しています。堅調な行楽やインバウンド需要に支えられ外食全体の売上高は前年を上回る月が続いた一方で、原材料価格の高騰や人件費上昇に伴う値上げによる面が大きく、客数自体の伸びは鈍化しています。ＤＸ等による省人化の推進や購買力を発揮する大手が独自の価格戦略で客数を増やす一方、コストの削減・転嫁がしづらい中小や個人店等では利益が圧迫され、飲食業倒産件数も過去最多となる等厳しい局面を迎えました。

このような状況下、当社グループは第６次中期経営計画の骨子である営業重点施策に営業資源を集中させるとともに、外食市場に対して確実に商品を確保し、適正な価格で提供させていただくことに注力いたしました。

2026年８月から10月にかけて開催中の秋季提案会につきましては９月末現在で全14会場のうち12会場が終了いたしました。

『めぐる』をテーマに、仕入先様と念入りに磨き上げたメニューや商品の提供等によりユーザー様の課題解決に向けた提案を行い、来場者数は12会場合計で約7,200名、新規来場も約530社といずれも当初計画を上回る多くのユーザー様に来場いただきました。

プライベートブランド商品（以下、ＰＢ商品）につきましては、当該期間において新商品16品、リニューアル品６品を発売いたしました。

このうち８月から９月には「サンホーム　えのきカット　中国産」を含む７品を発売し、秋季提案会場で紹介いたしました。

「サンホーム　鶏ハラミ炭火焼き」は希少部位である高品質なハラミを炭火で香ばしく焼き上げ、電子レンジでの調理が可能で使いやすい点でも高い評価をいただき、多くの採用に繋がりました。

また「おいしい海　骨なしぶり照焼き」は中食やホテルのビュッフェ等に使いやすいサイズで自然解凍で使用できることが人手不足の課題を抱えるユーザー様で評価され新規採用が進んでいます。

商品の値上げが続く中、値頃感のあるＰＢ商品を積極的に提案したこともＰＢ商品の売上増に寄与しました。

これらの商品政策及び営業活動の結果、ＰＢ商品全体の売上高は前年同期比107％と伸長いたしました。

ヘルスケアフード業態につきましては、専任チームによる全国フォロー体制が確立され、ヘルスケア施設向けの個別プレゼンテーションの全国展開等提案営業の強化を図りました。

前期新発売のＰＢ商品「ムースおせち 燦」は、咀嚼・嚥下困難の方に提供されている刻み食やミキサー食を一部代替できる食べやすいおせちとして施設及び利用者にご好評をいただきましたが、今期も引き続き、前期を上回る販売目標の下受注活動を強化しました。

これらの活動によりヘルスケアフードの売上高は前年同期比109％と伸長しました。

宿泊業態につきましては、未取引施設へのきめ細かな営業活動を進めるとともに、これまで蓄積してきたノウハウや各種認証を活用し、ラグジュアリーホテルをはじめとする新規取引先の開拓に注力いたしました。その結果、台風や地震等の影響を受ける中においても、上期の売上高は前年同期比107％となり、ラグジュアリーホテルとの取引においても成果が表れております。

営業・物流体制強化の一環として、2026年７月に笠岡営業所（岡山県笠岡市）を開設いたしました。今後、山陽エリアにおける物流の効率化を図るとともに、福山・尾道商圏での取組を強化してまいります。

直営店舗の「ももひこや」では、持ち帰りやすい常温商品と家庭で消費しやすい小規格商品の充実を図ることにより多くのお客様にご来店いただき、前年同期比128％の売上高となりました。今後も一般のお客様が気軽に立ち寄れる店舗づくりを進めてまいります。

ＥＣ（電子商取引）ビジネスにつきましては、サンプラザ楽天市場店に加え、サンプラザＡｍａｚｏｎ店を開店いたしました。当中間連結会計期間の売上高は前年同期比 約170％と大きく伸長しており、今後も引き続き拡大を図ります。

輸出ビジネスにつきましては、既存企業との取組強化に加え、昨年に引き続き、６月に開催された 2026年“日本の食品”輸出ＥＸＰＯへの出展等により、新規企業の開拓を進める等、事業拡大に引き続き努めます。

以上の結果、当中間連結会計期間の経営成績は、売上高666億８百万円（前年同期比3.4%増）、営業利益20億79百万円（前年同期比4.8%増）、経常利益21億18百万円（前年同期比5.4%増）、親会社株主に帰属する中間純利益14億31百万円（前年同期比1.4%増）となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況

（資産）

当中間連結会計期間末の総資産は、430億55百万円となり、前連結会計年度末と比較して19億44百万円の増加となりました。

主な要因は、現金及び預金が12億68百万円、建設仮勘定が３億42百万円、商品が３億円増加したことによります。

（負債）

負債は249億88百万円となり、前連結会計年度末と比較して８億47百万円の増加となりました。

主な要因は、買掛金が８億95百万円増加したことによります。

（純資産）

純資産は180億67百万円となり、前連結会計年度末と比較して10億96百万円の増加となりました。

主な要因は、利益剰余金が９億74百万円増加したことによります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年３月期の業績予想につきましては、2026年５月12日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,894	9,163
受取手形及び売掛金	15,948	16,244
商品	3,867	4,167
未収入金	1,829	1,315
その他	79	135
貸倒引当金	△4	△4
流動資産合計	29,614	31,022
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	10,888	10,903
減価償却累計額及び減損損失累計額	△6,932	△7,123
建物及び構築物（純額）	3,956	3,780
機械装置及び運搬具	457	469
減価償却累計額及び減損損失累計額	△394	△405
機械装置及び運搬具（純額）	63	63
工具、器具及び備品	597	767
減価償却累計額及び減損損失累計額	△417	△439
工具、器具及び備品（純額）	180	328
土地	2,324	2,324
建設仮勘定	10	352
有形固定資産合計	6,533	6,849
無形固定資産		
のれん	35	29
ソフトウエア	125	199
その他	27	27
無形固定資産合計	188	255
投資その他の資産		
投資有価証券	1,496	1,680
関係会社株式	95	－
退職給付に係る資産	297	297
差入保証金	2,039	2,197
繰延税金資産	739	660
その他	117	96
貸倒引当金	△11	△4
投資その他の資産合計	4,775	4,928
固定資産合計	11,496	12,033
資産合計	41,111	43,055

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	17,437	18,333
短期借入金	20	－
１年内返済予定の長期借入金	47	34
リース債務	63	112
未払金	395	186
未払費用	1,912	1,978
未払法人税等	688	731
賞与引当金	785	705
その他	157	70
流動負債合計	21,507	22,153
固定負債		
長期借入金	16	4
リース債務	155	348
役員退職慰労引当金	220	220
資産除去債務	779	782
退職給付に係る負債	1,314	1,331
その他	146	147
固定負債合計	2,633	2,835
負債合計	24,140	24,988
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,305	1,305
資本剰余金	1,247	1,259
利益剰余金	14,826	15,801
自己株式	△1,476	△1,457
株主資本合計	15,903	16,908
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	438	563
退職給付に係る調整累計額	629	594
その他の包括利益累計額合計	1,067	1,158
純資産合計	16,970	18,067
負債純資産合計	41,111	43,055

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
売上高	64,426	66,608
売上原価	52,395	54,051
売上総利益	12,031	12,557
販売費及び一般管理費	10,047	10,478
営業利益	1,983	2,079
営業外収益		
受取利息	5	14
受取配当金	8	9
受取賃貸料	5	5
貸倒引当金戻入額	－	1
雑収入	8	14
営業外収益合計	27	45
営業外費用		
支払利息	1	4
賃貸費用	0	－
雑損失	0	0
営業外費用合計	1	5
経常利益	2,009	2,118
特別利益		
抱合せ株式消滅差益	－	9
特別利益合計	－	9
税金等調整前中間純利益	2,009	2,128
法人税、住民税及び事業税	592	660
法人税等調整額	6	36
法人税等合計	598	697
中間純利益	1,411	1,431
親会社株主に帰属する中間純利益	1,411	1,431

中間連結包括利益計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
中間純利益	1,411	1,431
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	52	125
退職給付に係る調整額	△0	△34
その他の包括利益合計	52	91
中間包括利益	1,463	1,522
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	1,463	1,522
非支配株主に係る中間包括利益	－	－

（３）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。